

【 105 】

氏名	桑 島 紀 夫
学 位 の 種 類	医 学 博 士
学 位 授 与 番 号	博 乙 第 1923 号
学 位 授 与 の 日 付	昭 和 63 年 6 月 30 日
学 位 授 与 の 要 件	博士の学位論文提出者（学位規則第 5 条第 2 項該当）
学 位 論 文 題 目	全身性エリテマトーデスにおける補体による免疫沈降抑制能に関する研究 —抗原に peroxidase を使用して—
論 文 審 査 委 員	教授 木村郁郎 教授 辻 孝夫 教授 荒田次郎

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

補体の新しい機能である免疫沈降抑制現象に着目し、抗原に peroxidase を使用した免疫沈降抑制能（inhibition of Immune Precipitation ;IIP）の簡便な測定法を考案した。そして全身性エリテマトーデス（SLE）においてIIPを測定し、免疫複合体（IC）病変と免疫沈降抑制現象との関連につき検討を加えた。SLEのIIP値は正常人や他の疾患に比して有意な低下を示したが、経時的に観察すると低下は急性期の極く初期のみで臨床症状あるいは他の補体系に比して急速に正常化した。これよりIIPはSLEの発症以前にも低値であったとは考え難く、SLEのIC病変の出現はIIPの持続的な低下に起因するものではないことが明らかとなった。しかし、免疫沈降抑制現象で生じた可溶性ICは補体によるICの可溶化現象で生じる可溶性ICより分子量も大きく、リウマチ因子（RF）との反応性もあるので、病因的な活性はあると思われ、これらが局所に沈着してIC病変を形成しうる可能性が示唆された。

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

本研究は全身性エリテマトーデスにおける補体による免疫沈降抑制能についてperoxidaseを用いて検討したものであるが、本症では免疫沈降抑制能は有意に低下し、従来十分観察されていなかった経時的な推移について、急性期初期のみに低下、治療で回復することから、本症の免疫複合体病変は免疫沈降抑制能の発症前からの持続的低下によるものではないことを明らかにし、重要な知見をえたものとして価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。